★本格的なフランス料理が味わえる〝ダリア〟

そごう別館外商部地階の〝ダリア〟は、シックなムードと冴えたセンスのステキなレストラン。一人でも多くの人に、洋食発祥の地神戸の名に恥じない本格的なフランス料理を味わってもらおうと、店のスタッフは常に勉強を怠たらない。だからディナータイム（PM5・00～9・00）には腕によりをかけた素晴しいメニューが揃ぶ。エスカルゴ、フロッグレッグ（食用蛙）などもあり、サラダにはダリア特製のドレッシングがつく（持ち帰りもできる）。ランチタイム（AM11・00～PM3・00）には日変わりメニュー（250円）が。ティータイム（PM3・00～5・00）には香り高い珈琲が好評。また出張宴会もやっている。駐車場はそごうのを利用できるので便利。☎二五一・七八〇八

レストラン〝ダリア〟

★〝蝦夷〟一周年を迎える

北海道郷土料理の店〝蝦夷〟が開店一周年を迎えた。記念期間中、多勢の人が店を訪れ、北海道の珍味に舌づつみを打った。毛ガニ、ルイベ（シャケのサシミ）など、その新鮮さはもちろん味つけも看板に恥じない乙なものと専らの評判。「一周年記念にいらっしゃってどうも有難うございました。これからもどうぞよろしく」とのこと。二年目に入っていよいよ充実してきた。〝蝦夷〟である。

一周年を迎えた蝦夷

★私の家はあなたの家デス！

トア、ロードの東天閣北隣りに「伽廊」という新しいインテリアルームが生れ、その隣りの地下に、とても楽しいラテンレストラン「MICAELA」ミカエラ（生田区山本通三丁目60トーアハイツB1☎〈241〉五〇二三）が、九月九日オープンした。

南米チリの海軍出身のダゴベルト・メリリャンさんが、神戸の女性と結婚して三年、サンプラザの「エルマタドール」などでもおなじみだ。真白い壁にカラフルなポンチョのテーブルの室内。ソンブレロの腰に拳銃、ギター片手に、甘く情熱的な歌を奏でる。二五〇曲はラテンナンバーOK。チリーフーズ450円パリー風サラダ500円、タイムランチ350円、チャチーミカエラ300円　11時～深夜ショータイムPM7・00より

ギターのきこえる陽気なミカエル

●神戸うまいもんとドリンキング

カクテルラウンジ サヴォイ
高架山側テキの店北
TEL三三一―二六一五

高架の山側、テキの店のすぐ北にあるカクテルラウンジ〝サヴォイ〟はダーク調のシックなインテリアで、楽しみながら本格的に洋酒が楽しめる店。友達と、同僚と、恋人と、そして家族連れでもいいのです。

家庭でカクテルをつくってみたい方、ぜひ一度立ち寄ってみてはいかが？

ぜひ一度おいで下さい

マスターの小林さんは万博のカクテルコンクールで金賞をいとめたほどの腕の持主。あなたのご注文に応じたカクテルを何でもつくってくれます。

1500人のポスター
またまた作成中！

イギリス人 もドイツ人

もフランスの水兵さん も、そ

してパパ もママ もヤン

グ も坊や も

み～んなサヴォイのファンです

★おしゃれをしたらサヴォイで飲もう！

カクテルラウンジ
TEL 331－2615
高架山側　テキの店北

SAVOY
サヴォイ

千里と御常連

今宵、千里をおとずれた御常連は、オールドパーのごひいき連。女性もまじえての和やかなひととき。秋の気配が日増しに濃くなる今日この頃、ひときわスコッチの美味い季節です。

CHISATO

阪本　千里
生田・東門筋東新ビル地階
☎ (331) 4 7 3 0

●お酒の殿堂

アサヒビール特約代理店

酒類調味食品問屋

㊫ 神戸酒類販売株式会社

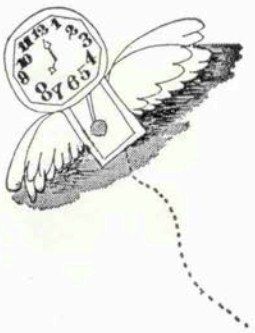
本店・生田区中山手通１丁目76
ＴＥＬ(078)321—0201(代表)
支店・西宮・垂水・兵庫

元祖 焼鳥 紀ノ国

おいしさが
口いっぱいに
ひろがる……
本場の味

■三宮センター街柳筋店
TEL 321—3446・331—0572
■新開地店
TEL 576—1191
■平野店（平野市場内）
TEL 361—0821
■三宮センター街サンプラザビルB_1
TEL 391—3793

神戸百店会だより



★「コマツヤ」の秋・冬 新作ファッションショー

三宮センター街のコマツヤが、九月八日、第十二回ファッションショーと舶来婦人服地とプレタの展示会を、オリエンタルホテルばらの間で開きました。

「'73クラシックとロマンからの出発――パリから貴女へ」のテーマの下に、「ジョセフィヌ」「明日逢う人」などと名付けられたヤングミセス調のフンピースやスーツ、ロングドレス31点が紹介され、見守るレディたちも研究熱心でした。

「今年の秋・冬は特にクラシック、エレガント……女らしさが強調されています」とは、お店の人の話。

今年のファッションに見入る皆さん

★サノへの〝フランス・キャピタル・フェア〟

元町通り二丁目、舶来服飾雑貨の店サノへが、十月二十三、二十四日、ニューポート・ホテル三Fの舞子の間で恒例の〝フランス・キャピタル・フェア〟を開きます。同時にファッションショーも企画されており「'74春夏のコレクション」が発表され、注文すると体に合わせて縫製、来春パリから直送されるシステム。見学希望者は、直接サノへへ申し込んで下さい。TEL三三一―四七〇七。開催時間は午前十時から午後五時まで。ショータイムは午前十一時半と午後二時半の二回。

★十月中旬、蛸の壺がスナックをオープン！

「たこやき」で有名な大丸前日東館北にある蛸の壺が、十月中旬に素敵なスナックをオープンします。場所は北野町一丁目、やながせの真向い。「。比奈古多」と書いてピナコティカと読み、イタリー語で小さな美術館という意味。趣味の美術骨董を飾ったり、木の臼をテーブル代りにしたり、ちょっと変わったアイディアで、楽しいお店にしたいという御主人のお話です。

★ちんがら屋第四十回「珍趣会」

呉服のちんがら屋（センター街・さんちか店）がオープンしたばかりの生田神社会館4F大広間で九月十八、十九日と恒例の「秋の珍趣会」を開きました。

今回は、能衣裳を参考にした古典的色彩を取り入れたのが特色で、色で着物を着てもらうことを考え、帯もそれにマッチするように染めあげたものが多く、深みや渋さのある落ち着いた色彩は、より女らしさを引きたてるでしょう。

古典的色彩を取り入れた衣裳

●ショップトピックス

★センスのいい婦人・紳士服飾の店として有名な**セリザワ**が、七十周年を迎えました。その記念式典が九月十九日、県民会館十一階の特別会議室で開かれ、社員とOB社員の慰労後、これからも発展するために努力することを全員で誓いあいました。

また、十月一日には取引先関係者やお客様を招いて、七十周年記念披露宴をオリエンタルホテルの大広間で開きます。神戸っ子のファッション向上のためにもこれからの活躍が期待されます。

★大丸前のオートクチュール**装苑**が、お店で働くお嬢さん（ミセス、男性でも可）を募集しています。年齢は二十歳から三十歳まで洋裁経験のある方。勤務は午前十時から午後七時まで。定休日は水曜デス。詳しくは、TEL三三一―七五〇へどうぞ。

★阪神御影駅北側に、オートクチュールの店**ヴィオラ**が、十月中旬にオープンします。エレガントな女らしさを引きたてるモードを中心に商品をそろえていく方針をとりたいというお店の人の話です。よりクラシック、よりエレガンスになったファッションに、見逃せないお店です。

★元町通一丁目にある紳士服飾の店**ウネ**に、秋・冬のコレクションがそろいました。「年々シルエットが豊富になっておりますから、ヨーロッパでわざわざ高い買物をなさらないで、ウネへきていただきたいですね」と、お店の人は男性ファッションに意欲満々のようです。神戸のダンディが増えるのは女性にとってもうれしいこと。

★元町通三丁目、男性洋品の店**フナキヤ**に、素敵なネクタイがあります。馬や鳥のプリントのネクタイは今年の流行。その他、カジュアルなものからシックな柄のネクタイまで各種豊富。色合いは落ち着いた秋の色が中心。デートの時あるいは友だち同士で寄ってみては？

ポケットジャーナル

★生田神社会館がオープン

三宮の生田神社にかねてから建設中の生田神社会館が完成、九月十二日竣工披露パーティが行なわれた。

地下一階、地上四階、総敷地面積約五十万㎡のこの会館は総合結婚式場ほか各種催し会場として巾広く利用できる。また二階ロビーには小磯良平画伯、水越松南画伯ほかの絵が三十余点展示され、市民の目を楽しませてくれそう。

開館記念行事として「観世元正」「能登御神事太鼓」（9月12日）、宗教講演会・山田無文、西山徳（9月22日）、献華祭、華道展（9月20日～）、「宮城道雄音楽碑建設」「宮城道雄を称える音楽会」（9月24日）、黛敏郎、高田好胤講演会（9月25日）、陳舜臣、筒井康隆文芸講演会（9月26日）、表千家、裏千家家元奉仕献茶式（9月30日）が行なわれ、また「文化勲章、芸術院会員、芸術院賞、人間国宝、異色作家の作品と作者写真展」が十月に予定されている。

生田神社会館・生田区下山手通一丁目十、TEL三二一―三八五一。

★手作りの品に人気抜群！

元町の入口、1番街にある元町文化学院が創立一周年を記念して八月二十五・六の両日生徒たちの作品を集めて作品展とチャリティバザーを開いた。

教室には生徒たちの作った人形、アートフラワー、皮革工芸作品など素人とは思えないほどの素晴しい作品が並び、訪れる人たちの目を楽しませた。

元町1番街の街頭で

また、同学院の向い側、協和銀行前ではチャリティバザーも開かれ、生徒たちの手による作品約百五十点と賛助出品として出された清水焼のブローチ、立杭焼などの手づくりの品に大変な人気が集まった。バザーの二日間の売り上げは六万一千七百八十円ですべて神戸新聞厚生事業団へ寄付された。

★元町画廊で小牧源太郎さんの個展

わが国の代表的なシュルレアリスト小牧源太郎さんの個展が九月一日から十五日まで元町画廊で開かれた

小牧源太郎さん、元町画廊で

小牧さんは京都生まれ、六十七歳。戦前から戦後へかけて自己のイメージを徹底して描き続けてきた、わが国の初期のシュルレアリストである。戦時シュルレアリスト弾圧期の、仏教的素材を借りての超現実絵画、ブラジル滞在中のイメージからの「アルマ（精

誕生日ありがとう運動

★重症児施設の危機

阪神電鉄武庫川駅で下車して、線路に沿って武庫川にかけられた橋を西へわたったところに、重症心身障害児施設「**砂子療育園**」（西宮市武庫川町二の九）があります。今この重症児施設が大きな危機に直面しています。入園児の三分の一を退園させ家庭へ帰さなければならなくなったのです。

この重症児のおむつをかえ、どばんをたべさせ、入浴などいっさいの世話をする保母さんがいなくなったからです。

低賃金、重労働その上職員の大半が職業病の腰痛にかかっています。だから、どんどん退職していきます。だが、園長以下関係者がいくら走りまわっても、職員を補充するめどがたたないのです。

そこで、施設の園長、職員と父母の会などが、この実情を訴え、現在の窮状から何とか立ちなおるために日夜懸命の努力をしています。

みなさんも、この施設の危機を十分に認識してください。そして自分自身として、どうすればよいのかと考えてみてください。

もし、よろしければ当運動本部へお電話いただければ共に考えていきたいと思います。

★誕生日ありがとう運動とは

誕生日のお祝いの中から意識的に百円節約し献金する。各家庭で、この問題について話し合う機会をもつ。このことを手がかりとして、わたしたちすべてが精神薄弱児（者）をあたたかく包む雰囲気を広げると同時に、ひとりひとりのかけがえのない生命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしよう、という運動です。

誕生日ありがとう運動本部

神戸市葺合区御幸通八の九の一
神戸国際会館一館（郵便局の前）
（二五一）八一六一内線316

霊)」「エスピリット・サント(聖霊)」など、最近の土俗信仰をテーマとしたものなど四十三点。「人間」あるいは「生」を追求した絵ばかりである。

七日夜、「ゼロの会」のゼミナールが小牧さんを講師に迎えて同画廊で開かれたが、絵に対する情熱、姿勢もずいぶん若々しい小牧さんであった。

★「ロバの会」絵画展開催

八月十五日から二十日まで三宮・さんちか広場にて「第十二回ロバの会絵画展」(氷上新一代表)が開催された。二紀会員宮地孝さん(月見山美術研究所)のところへ絵の勉強にきていた人たちの親睦会がロバの会のきっかけとなったのだが、三十七年の第一回以来毎年作品展が開催されている。「現在ではロバではなくサラブレッドとして活動し」(氷上さん)、「ようやくロバではなく駿馬になろうとしている」(宮地さん)。会のメンバーは学生、OL、主婦などで、今回も四十余名が各自の力作を出品、それぞれ思い思いの作風を誇り、宮地さんと沼田かずゑさん(月見山美術研究所)の作品も賛助出品されていた。

ロバの会連絡先 ☎七三二—六〇六九 谷 博子

力作がズラリと並んだ会場

★菓子は神さま「カール・ユーハイム物語」

ドイツ菓子「ユーハイム」の創始者カール・ユーハイムさんの波乱に富んだ一生を歌人頴田島一二郎さんが美しく描いた伝記「カール・ユーハイム物語」が新泉社から発売された。

カール・ユーハイム物語

第一次大戦のドイツ人俘虜として抑留されて以来、戦災、震災の被害をまともに受けたカール・ユーハイムが、神戸に移りドイツ菓子を日本に普及させ、独得の風味の菓子と欧風な店の雰囲気で今も神戸で繁栄を続けるユーハイムの創立期から、菓子作りに異常な執念を燃やしながら第二次大戦終結前日に「平和」を予言して逝った苦難の物語である。新泉社(TEL東京八一二—一六六二)刊。四六判上製二四六ページ。六百八十円。

★「チンパン博士の動物記」亀井一成さんが本を発行

サイの初体験、ライオン対トラの王座決定戦、クマ実の子でも食い殺す理由、カバはウンチで縄張り……祥伝社ノン・ブックから八月に発刊された「チンパン博士の動物記」は本誌動物園飼育日記でおなじみの王子動物園学芸員の亀井一成さん著作。

「チンパン博士の動物記」

動物たちの姿をとおして一人でも多くの人に、やさしい、いたわりの心を動物たちに対して持ってもらえれば、さらに、これがヒトの世界にも通じたならと願いつつこの動物記を記したと前書きでも書いている亀井さん、動物を愛する心がページごとにあふれている。動物たちの動きをとらえた

美術ガイド

★兵庫県立近代美術館
ある画家の生涯と芸術
——佐伯祐三展 2/15～2/14

★光陽メッセ
赤ポコ神戸ティ展 7/2～7/14

墨会絵画展 10/10～10/21

新代外国人展 10/16～10/31

美術連盟同展 10/9～11/10

★白鶴美術館
中国古代青銅器展 9/15～11/25

★南蛮美術館
紅毛美術展 9/29～10/24

アメリカから帰って特別展(於そごう百貨店19F) 10/9～10/24

★そごう百貨店六階画廊
大色青彫刻展 9/5～9/28
異人五人展 10/12～10/31
沖縄屋焼二人展 10/5～10/17
銀治登絵展 10/10～10/31
古丹波陶展 10/10～10/31
名昇油展 10/10～10/31
増築工事のため十月中旬まで休廊

★大丸百貨店五階画廊
さんちか広場
開催
デパ周年記念催し・レコード・フェア 9/28～10/3
さんちかフリーマーケット 10/5～10/16

健康と衛生展 10/12～10/23
オーストラリアフェア 10/18～10/30

★さんちかギャラリー
第十三回関西版画連盟展 9/27～10/3

中村義夫遺作展 10/5～10/16
阪神美育作家協会展 10/9～10/23

兵庫写真連盟展 10/12～10/23
第十五回水彩連盟展 10/16～10/30

★KCCギャラリー
須磨水墨画展 10/1～10/7
省木虚舟模写雪舟名作展 10/8～10/14

'73神戸光楽会写真展 10/15～10/21
第二十二回三筆社展 10/22～10/28

北郁家族展 10/29～11/4

★安田画廊
市OB展 10/2～10/14
三原康男個展 10/10～10/21
近藤孝個展 10/16～10/28
中西伍室展 10/24～10/28
省スタイル画教室展 10/10～10/19

★新光ギャラリー
森方正幸個展 10/9～10/13
山手美術研究所素描展 10/29～10/5

亀井さん自身の手による写真もたくさん入っていてたいへん楽しい本だ。二百三十二ページ。四百三十円。

★九、十月ノイエのいえ

「すっぱだかのまち」

道化座ノイエのいえ九、十月例会が毎週土曜日午後六時半から、日曜日一時半から柳筋のノイエのいえホールで催されている。

「すっぱだかのまち」は東淵修さんの詩集「釜が崎」「釜が崎の土」をもとに、中村茂隆さんの構成によるもの。――一人の酔払いが店の前で寝ていました。二人の男が向うの方からやって来ました〝どないしたんや、こないに酔うてしもて。しっかりしいやおっさん〟といいながらいっしょうけんめい介抱しだしました。だけど彼らの手がいつのまにか酔払いの腹に巻いてある時計にポケットにしのびよっていました。いつのまにかパンツ一枚になってしまったおっちゃんが〝ああすずしいてええきもちや〟といってもう一度寝なおしました――

構成・音楽／中村茂隆、出演／阿木五郎、須永克彦皆川修一。

★〝ミスター・ミニット・クィック・サービス〟神戸に登場

靴のカカトの張りかえ、合鍵、鋏・ナイフの刃とぎetcが、その場ですぐにやってもらえるという〝ミスター・ミニット・クィック・サービス〟というコーナーが神戸大丸一F靴売場にお目見え。

西独を中心に世界18カ国一五〇〇カ所にチェーン網をもつドイツ生まれのこのコーナー、ドイツ人技師の手で素早く正確に出来るので、神戸っ子に好評を博している。

ミスター・ミニット・クィック・サービス

〈訂正〉神戸っ子九月号中川衣裳店の広告で電話番号は三三一―七五二四五三三三の誤りでした。

花時計

★文化賞の功用

この秋神戸市も漸く文化賞を設定した。神戸では文化ホールの大・中ホールが完成し、それもこれも神戸の文化にとって大きな期待がよせられていたのは事実である。

ここで、こういった文化賞がどういう意味をもつのか考えて見たい。

それが特に地方自治体が賞を設定する場合に限ってみれば、地域社会と文化の結びつきを非常に明確にできることがあげられる。

地域と文化ということは、一見ほとんど何のつながりもないように見られ勝ちである。

実際、すぐれた文化は地域を越えた存在であるようだ。全国的な評価がなければ、ただ地域だけの彩りに過ぎない格好になってしまう。

しかし、文化は地域と深い密着、かかわりあいを確かにもっている。

京都には千年の伝統をもつ古都らしい文化が、大阪にも町人文化の心意気のような文化がなくはない。神戸には、個々には明確な指摘はできなくとも、やはり、神戸らしい、コスモポリタンな文化が、それもハイカラな伝統に根ざした文化がある。これらの独自の文化が昇揚されるとき、ここにはつらつとした神戸が期待できるのである（Y）

KOBE POST

★画家の**中西勝**御夫妻は、十月に日本へ帰ってくるとのお便りがありました。

★**大阪ロイヤルホテル**の新館（**取締役会長堀田庄三・社長山本孝**）は、九月二十九日（大阪市北区玉江町二丁目一）にオープン開業の運びとなりましたとご案内がありました。

★バレリーナの**上月倫子**さんの、御幸ビルバレエ研究所（地下）に直通電話〇七八（二五一）三九四八、六階の住宅六〇三号室に〇七八（二二一）四六〇一がつきました。

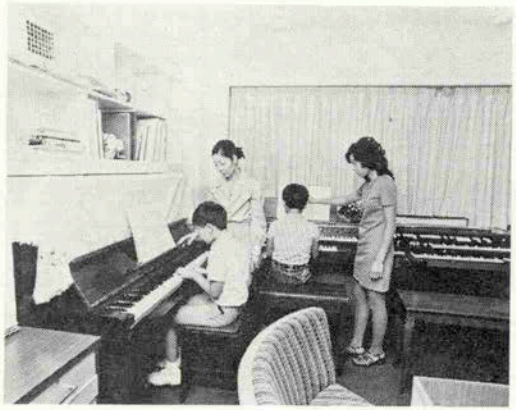
★「人生は八十歳からの会」が、九月十六日生田新道KCBビル5階ぶーげんで開かれ、八十歳を迎えた**白子恵美**さん（お方さん人形の制作者）を囲んで、明治の歌、明治の回想を、**中崎初子**さん、**小畑雛子**さんが、母の長寿を祝って秋の一日を過されました。白子さんのご健康をお祈りします。

★十月一日**セリザワ**（**芹沢利雄社長**）は創業七十周年を迎えて、オリエンタルホテル大宴会場で記念披露を開くとご案内がありました。おめでとうございます。

★ヘヤーデザイナーの**マサル・ニシムラ**さんは、この夏、神戸市生田区下山手通三丁目四四ノ一宝ビル二F電話〇七八（三九一）一二一八にビューティパーラー〈女性の館〉まさるを開かれ、個性美学に基づいた〝彫刻カット〟のオリジナルデザインで、美しい髪づくりをしようとはりきっていらっしゃいます。

★クラブ小万の**岩本起代子**さんの長女**孝子**さんが十月十日、生田神社会館で**中西信機**さんとご結婚されました。タカちゃんおめでとう！

ブリリアント
音楽教室



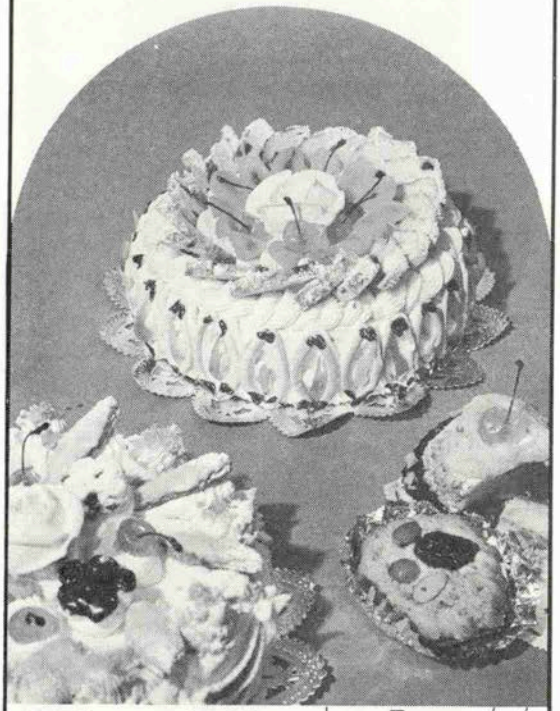
幼児から大人まで、巾広いレパートリーでレッスンするハモンドとピアノの音楽教室。

月曜日	ハモンド	午後1時
水曜日	ピアノ	～
金曜日	ハモンド	6時迄

●神戸市生田区下山手通3丁目44
井上ビル 2F

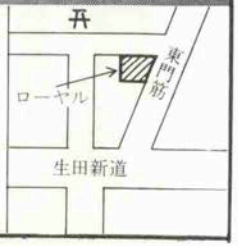
ブリリアント音楽教室
TEL 078〈321〉0589

秋です
ケーキがおいしい！
ホームメードの味ローヤル

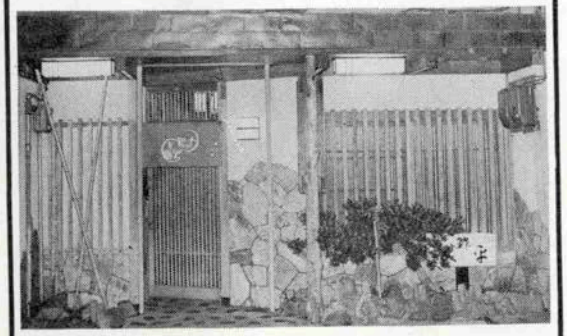


フランス菓子
ROYAL

神戸三宮生田東門筋
TEL. 331－5628



鮪の又平



神戸三宮生田ノ社ノ西　電話(331)0935

おすしてんぷら
榮彌

本店　大丸前・三宮神社東
TEL(331)5772
5673～4
(毎週水曜日休み)

支店　さんちか味ののれん街
TEL(391)5233
(第3水曜日休み)

営業時間
A.M.11.30～P.M.9.00

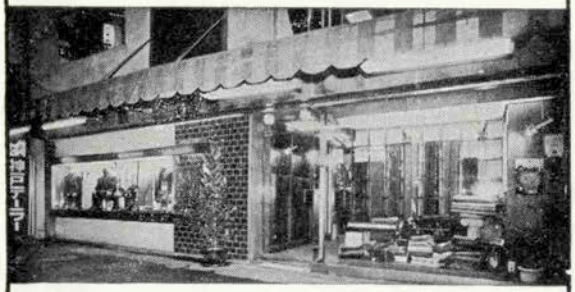
AUTUMN KOBE SHOPPING

やっぱりうまい
むさしのとんかつ
トンカツ
コーベ三宮
ムサシ
でんわ・331—三七七一
321—〇六三四
321—〇六三五

ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！
三恵洋服店
元町4丁目　TEL(341)7290

高級紳士服専門店

神戸テーラー



さんちかメンズタウン　TEL(391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口)TEL(331)2817・3173

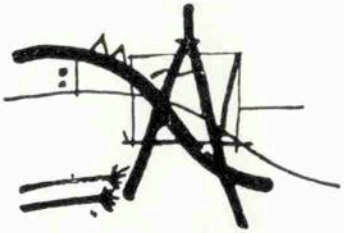
おもちゃの

カメヤ

三宮方面でのお買物は…
さんちか店　ファミリータウン　☎4045
三宮店　センター街(改装のため休業中)
元町方面でのお買物は…
元町店　元町通3丁目山側　☎0090
パンプウ店　元町通1丁目不二家前　☎0768

AUTUMN KOBE SHOPPING

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北
トア・ロード
331-1309・6243

べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目　TEL(331)6195

新連載小説〈一〉

生きる証し

葉月一郎

え・小西保文

まだ遅くない

月が、ふたつに見えた。

糸のように細くて、どこか頼りない。そのやせた姿が、東門筋のネオン越しに揺れている。

（ちょっと飲みすぎたかな）

戸波峻（とばたかし）は、右肩に乗せていた背広の上衣を左へ移すと、けだるそうに小さなアクビを呑みこんだ。

午前零時を回っている。潮のひくように、盛り場を流れる足は急いでいた。

小走りに、舗道を蹴るヒールの音が近づいた。暖かい体温が、ぐっと寄り添う。

「あーあ、間にあった」

息をはずませて、ユカは戸波を見上げた。ふっくらと形のいい胸の隆起が、大きく息づいている—。

「はじめてね、戸波さんが誘ってくれはったん。どんな風の吹き回しかしら」

どこかアカ抜けしなくて、店ではひどく無口なホステスだが、時折りみせる笑顔は、はっとするほど暖かい。

のめりこむように酒に溺れていた今夜。ゆきつけのバーの片すみでユカのえくぼを視線に入れると、かすかに心がなごんだ。営業用の厚ぼったい笑顔の中から、ためらうことなくユカを選んだ。

（この娘となら、もう少し気分のいい酒が飲めるかもしれない）

甘ったれてるな、と自分でも思う。

しかし、無性に飲みたい。夜が明けるまででも、正体がなくなってもいい……。

「おそくなってもいいかい」
生田新道へ出たところで一応聞いてみる。ユカの微笑がかえってきた。
「うれしい。お酒でも何でも、つき合うわ」
同じ猪年生れで、ひと回り違うといっていたから二十三歳だろうか。舗道で見るユカは、それよりも若く、ひどくあどけない感じさえする。
タクシーを停めると、戸波は「花隈へ」と運転手に伝えていた。

「新聞記者って商売は、えらく孤独なもんだよ」
新聞社に入社した当日、先輩のひとりからさりげなくいわれた言葉が、十年たったいまも胸底に突き刺さっている。
いや、日常に追われてすっかり忘れていたのが、このところ急に頭をもたげてきた、といえるかもしれない。
神戸支局に転勤してきてから、もう五年になる。その歳月の積み重ねとはうらはらに、仕事といったら一体なにが残ったというのだろうか。
スランプなどではない。
新聞とはなにか、新聞記者の生き甲斐はどこにあるのか。しょせんは、他人の行為や業績をかすめとってきて、好き勝手に書きつらねているだけ。およそ非生産的なライティング・マシン（書く機械）に過ぎないのでは……。
むなしさが深まるばかりのこのごろ。
どうしようもないいらだち——。
そんな戸波を支局長の石津が呼びつけたのは、きょうの、もう夕暮れに近いころだった。
「まあ、すわれよ」
突っ立っている戸波に椅子をすすめると、支局長はじっと彼をみつめた。まるで、心の奥をしーんとのぞきこむような冷たい視線だった。
人望がないわけではない。むしろ、仕事を離れたときの、夜の遊びっぷりや私生活の面倒見のよさで、支局長は一部の部下たちから慕われていた。人のよい〝おやじさん〟みたいな面もあった。
が、こと仕事につながることでは、その強引さ、横柄さ、威丈高になるところなど、どれをとっても戸波は好きになれない。
そんな嫌悪感が表情に出た。
「むつかしい顔をしとるなあ」
視線を一瞬のうちになごませると石津支局長はタバコをくわえた。そして、火をつけないままで言葉を続けた。
「仕事があるんや。ひとつ、君がキャップというか、中心になって取組んでもらいたいのや」
来たな、と戸波は身構える。ノルマめいたもの以外の仕事のとき、いつもこんな調子の注文なのだ。言葉は柔かいが、有無をいわさぬ響きがこもっている。
「どんなテーマですか」
「うむ」
視線を虚空に泳がせたまま一呼吸おくと、支局長はまるで独りごとのようにつづけた。
「兵庫製鉄に対する公害キャンペーン、といえば、一番わかりいいかな。とにかく、あそこの煙、降下ばいじんはひどい。東神戸の公害源の大半は、あの製鉄所といっていいやろ。まあ、こっちは、市民の健康を守るという立場でやな、あの煙が少しでもなくなるように、いろいろと書いていこう、ということや」
「しかし……」
思わず、制止する言葉が口に出た。
兵庫製鉄は、全国的にも五指に入る大手メーカーである。いわんや神戸では、最大の企業として産業界に君臨している。下請けの会社だけでも二百社を越えるはずだ。
新聞社の一支局が、そんなマンモス基幹産業に弓を引いてみても、しょせんはカマキリの斧にすぎないのではなかろうか。読者、つまり住民だって、どの程度ついて

きてくれるか……。

昭和四十五年初秋――。

公害に対する世論の風当りは、まだ微々たるものだった。静岡・富士市の製紙工場が流すヘドロに対して、ようやく住民や新聞が声を上げはじめたころなのだ。

「そんな記事、書いてみても、なにほどの効果があるんですか。第一、取材だって、相手の壁が厚くて、とてつもなくむつかしいですよ」

精いっぱい突っかかってみせる。いつもの支局長なら、ここで血相を変えるか、「もういいよ」と払いのけるところである。

だが、石津は相変らず焦点の定まらない視線を空に流したまま、言葉をつづけた。

「君は神戸へ来てからもう五年やろ。なあ、この辺で、君やないとできん仕事をやってみよか、という気になれよ」

「五年もいたからこそ、町の事情がようわかるんですよ。そんなキャンペーンのむなしさも……」

「おれは、まだ一年半やけどな」

そういうと、この中年の支局長はどこかくすぐったそうな表情で、ようやくタバコに火をつけた。

「他人がむなしいと思うこと、効果なんかないと決めてしもてることをするのが大好きな性分やねん」

「支局長はそれでいいでしょうけどね、やらされるわれわれが迷惑ですよ」

騎虎の勢いである。

いい過ぎたかな、と心の底でブレーキがかかったが、舌は止まらない。

「ぼくはねえ、新聞のキャンペーンそのものに疑問を持ってるんですよ。交通問題、あれだけ書いて事故がちょっとでも減りましたか。黒い霧キャンペーンだってそうや。書いたあとの選挙をみたら、汚職議員の大半がまた当選してたやないですか」

「だから兵庫製鉄の公害退治も意味がない。参加お断り、という理くつは成り立たんのやないかな」

「いや、成り立ちます」

「成り立たん」

ややとがった口調になったが、支局長の目元はかすかに笑っていた。その微笑が、支局長の決意の深さを示すように見えた。

しかし、いや、だからこそ戸波の心は、いっそうかたくなになった。

「第一ですねえ、こんなキャンペーンの企画たてて取材をしても、原稿を本社へ送ったとたん〝やめとけ〟と上からつぶされるんと違いますか。広告部も黙ってまへ

んやろ」
「戸波！」
はじめて声が荒れた。
なにかいい出そうとした唇が、そのまま閉じられて、あとは瞼の底に爆発しそうな怒りがにじんでいる……。
それを敏感にみてとると、戸波はかすかにうろたえた。上司を怒らせてしまったことに対してではない。
（上からつぶされる――それを、実は支局長自身も内心一番おそれているのだ）
確信に似たものが脳裏をよぎった。
組織には当然のことのように派閥がある。石津支局長が、編集の主流である本社の編集局長や社会部長とは別ラインの、いわば反主流に属している、ということは若い支局員たちの常識になっていた。
「もういい。まあ、一両日、考えてみてくれ。この企画には君が必要だと、おれは思ってるのや」
それだけいうと、支局長は背を向けていた。声は、意外にやさしい。が、そのやさしさに孤独の影をみた想いだった。
なにかいわなければ――そう気付いたとき、支局長の背中は支局から消えていた。
轟音とともに、輪転機が回っている。
そこから吐き出された新聞紙がいったん宙に舞い、そのまま群をなして戸波に襲いかかる。
何かにつまづいて倒れた上へ、新聞が容赦なくなだれ落ちた。
埋まる。息が苦しい。
突然、輪転機までが宙に舞い、頭上に降ってくる――。
自分のうめき声で目がさめた。
（夢だったのか）
見知らぬ部屋である。
割れるようにうずく頭をかかえて見回す。
部屋のすみの畳に、若い女が眠っていた。体にかけた赤い毛布から、童女のような白い足がのぞいている。
座ぶとんを枕がわりにした、あどけない寝顔――。
（ユカだ。とすると、ここはユカの部屋らしいな）
ユカのものなのだろう、赤い花模様のふとんを戸波は独占しているのに気付いた。
花隈で、したたか水割りを流しこみ、さらに布引のサパークラブへ乗りこんだまでは覚えている。
夕方の支局長の顔や声に挑戦するかのように、ウイスキーをあおった。勝ったのか負けたのか、あるいは一人相撲だったのか。
ユカは終始おだやかだった。視線があうと、あの暖かい笑顔を返してくれた。無口なのが有難かった……。
そのあと、どうしてここへ転がりこんだのか。
小さな目覚まし時計が五時を指している。
枕元の水差しに手をのばした。つづけて二杯、灼けるような胃袋に水を流しこんだ。
「あ、起きはったん」
コップの音で目がさめたのだろう、ユカがむっくりと半身を起こした。
急いで毛布で足を覆うと、ニッと微笑してみせた。
「小さいふとんで、ごめんなさいね」
「いや、いろいろ迷惑かけたようやな」
「ううん、ちっとも。ユカ、とてもたのしかったわ」
スリップの上に急いでブラウスを羽織ると、ユカは立って台所で湯をわかしはじめた。
六畳一間と流し台だけの粗末なアパートだ。楽屋裏もまる見えである。
「すぐ、お茶入れるわ。夜明けのコーヒーね」
そのまま寝たらしい、スカートのしわが目立った。その、いっそう短かくなったスカートから伸びた太ももがひどく戸波の心をくすぐる。
「ユカちゃん、おいで」
なにかご用？　と問いたげな表情でユカが近づく。それを待ち兼ねて手首をつかむ。引き寄せる。

「好きか」
答えずにユカは戸波の胸に頬を埋めた。そのままの姿勢で、目をいっぱいに開いて見上げる。まばたき一つせずに……。
のどがかわいている。心もカサカサにかわいたままだ。
少しずつ大きくなるあえぎに抗しきれずに、ユカがかすかに唇を開いた。
腕に力をこめて、その唇を唇で覆った。わずかに抵抗したあと、ユカはすぐ腕を回してきた。
「乱暴に、しないでね」
恥ずかしそうに告げると、こんどは目を閉じて顔を胸に埋めた。
まるで幼女を着せかえる母親のように、ゆっくりとユカの身につけているものを外してゆく。
最後のものが脱ぎ落ちたとき、ユカは両手で顔を覆った。
朝が、カーテンのすぐ外まで忍び寄っている。その甘い光の中でユカの小麦色の肌は優しく湿りを帯びていた。
小さな感動が戸波を揺さぶる。
静かに、まるでくすぐるように、その肌を愛撫する。
首筋から胸にかけてくちづけを繰り返す。
それほど大きくはないが形のよい乳首に触れると、ユカはああと声を洩らした。
こみあげてくる衝動にあわせて、戸波はユカを引き寄せていた。静かに肌を合わせた。
小刻みな震えが止まった。
「ユカ」
ささやくように呼びかける。
答える代りに足をからませてきた。
「好きよ、……ずっと好きやったわ」
愛などという言葉は、もう何年も前の過去へ置去りにしてきた戸波である。
ユカは単に行きつけのバーのホステスに過ぎぬ。行きずりの男と女のよくある話と片付けても不自然ではない。(そう。今夜はただ、生きている証しが無性に欲しい)
「好き」という科白をバックグラウンド・ミュージックのように受けとめながら、ユカの体をまさぐる。
そこはすでに、戸波を待ち受けていた。優しく、やがて荒しく、ふたりは一つになった。
予想した通り、ユカは初めてではなかった。戸波を迎え入れると、いっそう燃えさかった。
台所の湯わかしが、音を立てて沸きかえっている——。

☆新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

〈10月号予告〉

☆グラビア「女の四季」高宮 沙千
〃 「万葉記」⑦犬養 孝
〃 「And His Ladies」大高 猛
〃 「新鋭写真家競作展」
〃 「私の散歩道」
ジャン・メルオー、石川 忠、山村 若
☆特集 CLUB & BAR
〃 随想 マイユートピア
——サンチカ8周年——
☆連載対談㉙ 楠部彌弌 鈴木健二
☆商売の最前線「福井タンス店」
☆激動のアラブを行く⑪
イラク(下) 林 辰彦
☆「織田作之助伝」⑳大谷晃一
☆「大阪物語」② 小出楢重/石濱恒夫
☆「競馬酔狂伝」⑧ 新橋遊吉
☆この人この時 棟方志巧
田原富子 高林陽一 末広真樹子

月刊 オール関西編集部
大阪市北区梅ケ枝80 梅新東ビル7F
TEL06—364—2434～7(代)

DRINKING

フラメンコの店

ブルーリボン

加納町３丁目交差点西20米上ル
☎241—8679

神戸の山手、加納町にフラメンコの店、ブルーリボンがある。情熱的なカスタネットをかき鳴らす音とフラメンコのリズム、そして、ステージに目を移せば、マスターのギター伴奏による目にも彩やかなフラメンコ舞踊。この素晴しい舞踊が見られるのは、金曜日の夜、8：00・9：00・10：00の三回。

飲み物は、スペインのセリー酒（ワイン）が￥350、軽食としてトルテージ（オムレツ）が￥400など、いろいろある。

今年６月１日に16周年をむかえたブルーリボンは、安心して気軽に行けるフラメンコムードいっぱいの店である。

営業時間PM6：00～AM12：00（第３日曜は休み）

第１回関西フラメンコ
ギターフェスティバル
日時　10月21日(日)
午後６時
場所　兵庫県民会館
主催　ブルーリボン
フラメンコ愛好会

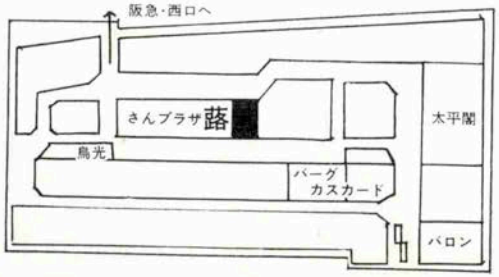
フラメンコギター教室
火曜・金曜・日曜の
PM3：00～6：00
初心者歓迎

スタンド

さんプラザ　蕗

生田区三宮町１丁目（さんプラザ地下）
☎321—3291

三宮のド真中、さんプラザ地階にスタンド蕗がある。夜ともなれば、場所がら、オフイス帰りのビジスマンで店はいっぱいになる。こじんまりとした店だが、ゆったりとくつげる雰囲気が何よりもうれしい。この店の自慢は、熱物を色々と料理して出せること。グラスを傾けながら手づくりの味を楽しむには、これからの季節は最適。心のこもったサービスと、カウンターからきさくに話しかけるステキな女性とで、時間のたつのがとても速く感じる。そんな居心地の良い店である。また、奥には小部屋があり、談話室に利用できるので便利。

水割（オールド）400円、ボトル（オールド）6,000円、（スコッチ）8,000円、つき出しは300円から色々とある。

営業時間PM4：00～PM11：00（第３月曜は休み）